

1 単元 人のたんじょう

2 目標

人の母体内での成長の様子に興味・関心をもち、自ら変化や成長を調べようとする。

( 関心・意欲・態度 )

生命の誕生から成長について、条件に着目して観察の計画を考えたり結果を考慮したりすることができる。

( 科学的な思考 )

人が母体内で成長していく様子を、映像資料や模型などを活用して計画的に調べ、まとめることができる。

( 観察・実験の技能・表現 )

人は母体内で成長して生まれることができる。

( 知識・理解 )

3 指導にあたって

本単元は、一番身近な自分自身を対象にしているが、直接経験をしながら学習することができにくい内容である。そこで、児童に自分が調べたいテーマについて自己決定させ、インターネットや図鑑、あるいは養護教諭からの話などの調べ学習をすることによって理解をより深めさせたい。さらに本単元はその内容上、どうしても児童の五感を通しての活動が少なくなりがちになるので、効果的に VTR や図を活用しながら視覚的にとらえさせたり、胎児の模型や育児指導用の人形（誕生時の身長及び体重が同程度）の活用を取り入れながら、児童の実感に近づけていくように配慮していきたい。そして、児童の家庭環境には十分配慮しつつ、お腹に赤ちゃんがいるときの母親の思いを家の人からインタビューする等の活動を取り入れることによって、単なる知識の注入にとどまることなく、生命の尊さに気づかせながら生命尊重の態度を育てていきたい。

4 指導計画（5時間扱い）

小単元	時間	主な学習活動・内容	評価規準
各自の課題を決める	1	人や動物の誕生について、知っていることや知りたいことを話し合う。	人や魚の誕生についての情報から、意欲的に課題を解決しようとする。
母親の体の中の子ども	2	母親のおなかの中の子どもは、どのように成長していくのか考え、学習計画を立てる。	人は母体内で成長していくことを予想することができる。
人の誕生	3 4 (本時)	子宮の中の子どもの様子やその成長について調べる。	資料を活用して人の成長や誕生について調べることができる。
まとめよう	5	人の誕生について調べたことを振り返り、まとめる。	人は、母体内で成長し生まれることを理解することができる。

5 本時の指導

( 1 ) 目標

自分の生まれる前の様子に関して意欲的に調べ、命のすばらしさを味わうとともに、お母さんのおなかの中の赤ちゃんの成長の仕方に気づくことができる。

( 2 ) 準備・資料

胎児発育順序模型 ビデオテープ 砂袋 羊水実験装置（ガラスビン、生卵）  
本（おなかの中の赤ちゃん・人のからだ・いのちがうまれる） パソコン

( 3 ) 展開

学習活動・内容	教師の手立て及び援助
1 本時の学習課題を把握する。  お母さんのおなかの中にいる赤ちゃんの様子をいろいろな方法で調べてみよう。	赤ちゃんが生まれた直後のビデオを見て、生命の誕生の感動を味わうとともに、おなかの中にいた赤ちゃんについて調べる意欲を高めるようにする。
2 前時で立てた予想や計画について確認する。	既習をもとに予想したり、表現は不十分でも自分の考えを述べようとしている児童を認め、調べてみたいという意欲を持たせたい。
3 おなかの赤ちゃんについていろいろな方法で調べ、気づいたことをメモする。  資料を使って調べる。 ・ 図書資料 ・ 映像資料 ・ インターネット 話を聞く。 ・ 保健の先生 ・ お母さん 実験・体験 ・ 羊水実験（ガラスビン・生卵） ・ 妊婦のおなかの重さ（砂袋） ・ 胎児の大きさと重さ（胎児模型）	事前に調べたいこと思ったこと以外のことで、進んで調べるように励ます。へその緒やエコー写真など、自分がおなかにいたころの資料なども参考にする。自分が生まれたときの家の人の気持ちに触れることで、命の大切さや誕生の喜びを味わえるようにしていく。その際には、児童の家庭環境等に十分配慮する。胎児の動きを視覚的に捉えることで、胎児が活動しているという理解を確かなものにする。実験では、母胎のもつ機能の巧みさに気づくようにする。 ①自分が選択した方法で、生まれる前の赤ちゃんの様子について調べ、気づいたことをメモすることができたか。 ( 観察・学習ノート )
4 学習後の感想を記入し、発表する。	感想発表では発表を支持し合う雰囲気作りに配慮するとともに、同じ感想をもった子を挙手させ、感想発表に全員参加できるように工夫する。
5 自己評価をし、次時の学習について知る。	②自分なりの感想をもつことができ、自己評価することができたか。 ( 発表・自己評価カード )